

意欲に応え、可能性を広げる

愛知淑徳の授業

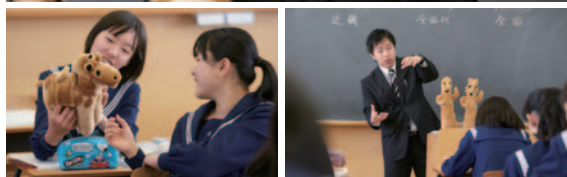
時代の先を見据えた教育に力を注ぐ愛知淑徳学園(大学・高等学校・中学校)のさまざまな授業を紹介いたします。
生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる教育現場の熱を伝えます。

高等
学校

愛知淑徳高等学校

社会

大野 慎司教諭



“実感”を持って社会科を学び、 知的好奇心を大切に育む。

実社会で生きる多くの知識が得られる科目、社会科。その学問としてのおもしろさに生徒が気づくことができるよう、日本史を専門とする大野先生は“実感”を大切にした授業づくりを心がけています。古墳時代の単元では、ミニチュアの埴輪などを教材として提示。生徒たちは一つひとつをじっくりと観察しながら、特徴的な形状やつくられた意図などを理解します。また、社会科全体の行事として3年に1回、東京方面への「社会科研修旅行」を実施。政治・行政の機関や歴史的建造物などを巡り、日本という国の成り立ちや、各時代の人々が生き、築いてきた文化・歴史への関心を高めます。「社会科を通して、生涯学び続ける力となる探究心や知的好奇心を育てほしい」と大野先生。生徒一人ひとりの未来を見据えています。

大学

福祉貢献学部
福祉貢献学科 社会福祉専攻

福祉貢献研究 I・II

瀧 誠教授

研究活動を通して課題解決力を養い、 社会福祉の現場へと送り出す。

医療機関や行政でソーシャルワーカーのキャリアを重ねた瀧先生は、現在も障がい者の地域生活支援、権利擁護活動などに携わり続けています。その経験を活かし、学生に指導しているのが、「People(研究対象・調査対象)」「Problem(問題)」「Process(どの位置にある人か)」「Place(調査する場所)」を大切に研究活動。「この4つの『P』を意識した思考・行動が、社会人になったときにも“課題解決の力”として役立つでしょう」と瀧先生は期待を寄せます。また、ゼミの運営では学生の主体性を重視。卒業論文に取り組む4年生は、フィールドワークや調査の進捗を報告し合い、仲間の質問や意見から新たな気づきを得て、分析や考察を深めます。その過程で、社会福祉の現場で求められる柔軟な思考力や対話力などが養われていきます。

